

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372100275		
法人名	社会福祉法人 ことぶき会		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	岡山県岡山市北区御津紙工1410		
自己評価作成日	平成21年11月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3372100275&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3372100275&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成21年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者が個々の趣味を持ち共通の仲間ができ、趣味を生かしている。</li> <li>・ 地域密着型の通り施設の近所周りの方が入居され屋号で呼び合う場面もあり、温かみが見られる。</li> <li>・ 地域行事に積極的に参加出来る機会が多い。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>設立して7年目を迎え、利用者の中で2人の女性利用者が設立以来ずっと在籍して、女性は7人と男性2人の仲の良い利用者の集団を見た。利用者によく喋り、お互いにぼけとつこみの名コンビの会話をしながら笑いを込めて話し合っ和気あいあいの関係を持っているのは珍しい位の雰囲気である。大きいが大変優しい男性職員が人気で利用者の会話の中に厨房の中からも入ってその利用者の会話を盛り上げていた。7人の職員も笑顔で明るい雰囲気を盛り上げている。そして家族の皆さんがホームをよく訪れてくれ、特に土日は家族に対して忙しい位だそうだ。家族の色々な協力があってホームは成り立っている姿を見た。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くない</li> </ol>
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に見やすいところへ掲示し各自共有している、年に2回は理解度の把握を行っている。	母体法人全体の共通理念に沿って、毎年全職員で相談してホームの年度目標を決め、理念と共に事務所に掲げ、日々の支援に活かすよう心掛けている。法人内異動の職員も多く、理念は深く浸透している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員、老人クラブ、など気軽に見学、訪問をしていただいている。毎月恒例の音楽ボランティアでは、近所の方にも気軽に参加の声かけを行っている。	運動会・花火大会・月見会等地域行事に積極的に参加し、祭りの御輿もホームに来る。学校の文化祭に招待され、学童保育児や中学生が慰問に来る。近所の方は犬の散歩ついでにホーム周辺の草取りをしてくれる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的にリハビリを兼ね地域への散歩を行い、地域の一人暮らしの方や、農作業中の方などとのコミュニケーションも行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議では事業所の細かい報告まで公開し、各参加者からのアドバイスを参考にケアに生かしている	利用者・家族・市職員・包括支援センター職員等が出席して、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。ホームの状況やヒヤリハット等も報告して、情報交換しながら理解を深めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議へ出席して頂き事業所の資料のチェックや地域全般から見渡した、意見や参考事例など貴重な意見も頂いている。	何かあればその都度市町村に相談し、指導・助言を受けている。役場や包括支援センター(サブセンターや分室)職員の運営推進会議出席もある。市町村と協力してサービス向上を目指している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を当たり前に職員間では毎月のスタッフ会議に於いて共通認識を再確認し実践につなげている。日中の活動時間帯は全てオープンにしている。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作り、職員ミーティングで話し合い認識を共有している。徘徊癖のある利用者もいるが、ホームは行き届いた見守りで対応し、玄関は施錠していなかった。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のスタッフ会議に於いて意識をしていない虐待はないか、繋がる恐れがないか、見落とさないよう話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係研修に参加しスタッフ会議で共有し万が一の現場での必要性を察知出来るようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時家族と管理者が契約書を読み合わせをしながら家族の表情で安心、納得してもらえたかなども察知している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族参加による食事会を通して意見や要望を聞かせてもらい現場へ反映させている。又家族のアンケートを参考に反省や見直しにつなげている。	ホームは何事も家族に連絡し、毎月ホームのたよりを発行して家族との連携を大切にしてきた。その働き掛けが功を奏し、家族が協力的で面会が多い事がホームの特色となっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全員参加によるスタッフ会議では日常的に担当者が持ちケースのまとめをし担当者の意見を重視しより良いケアの方針を全員で話し合っている生かしている。	毎月定期的に職員ミーティングを開き、情報交換しながら話し合っている。職員はそれぞれ活発に意見を述べて認識を共有し、より良いケアを目指そうとしているのがミーティング記録からも分かる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回評価表に各自が自己評価や要望、アピール等提出し代表者は参考にし向上心につながるよう心がけている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育マニュアルに添い研修を受けている、毎月全員参加のスタッフ会議ではケアの統一が出来るように特に新人には促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネ連絡会などへも参加し親交を深め日常的な関わりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と介護支援専門員がインテーク面接時ご本人の意見を充分傾聴しながら初日からのGHでの生活がスムーズに出来るような関わりを大切にしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク面接時や入居契約時に生活歴など思いや要望など入居後の生活に生かしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク面接時管理者と介護支援専門員が本人、家族の思いをくみ取ってケアにつなげていけるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で家族の一員として本人の意欲を引き出して頂けるように、生活歴も参考にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的に些細な出来事も即座に家族へ連絡し、理解、協力を頂きあえる関係作りを大切にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を重視し個々の対応に生かしている。	「今日はAさん来ないんだな」友達の面会を楽しみにしている人もいる。「自宅に帰りたい」とか「墓参りに行きたい」利用者の気持ちを家族に伝え協力してもらったり、時には職員が同行して支援していた。	利用者がこのホームで最後まで生きる事は、過去の馴染みだけでなく、今からこのホームで生活している空気、雰囲気をしっかり感じさせてあげる事に気を配ってもらいたい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活歴や個性を大切にスムーズな人間関係が保てるようその場その場の雰囲気作りを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居手続き時点で将来的な事も視野に入れ話し合い、家族の負担軽減に繋がるように伝えている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴をもとに本人の意向が発揮出来るような、場面作りを心がけている。	「魚はいらん」無理強いせずに応じたり、コーヒー・甘酒・お汁粉等それぞれの好みに合わせていた。家族に聞いてこれまでの生活歴を把握し、言葉や様子から本人の思いや意向を汲み取るよう努めていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時に網羅し環境が変わっても混乱のない生活を確保していけるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴の中で趣味や入居者同士の関わりの中から生活パターンを作りあげている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に本人の思い、面会時の家族の意向も参考にし、毎月のスタッフ会議で全員の意見も参考に介護支援専門員がまとめている。	本人・家族から計画作成者・管理者・担当職員が良く話を聞いて、全職員に情報を伝え、検討してプランを作成している。短期目標を具体化したチェック項目を毎日検証し、プランに反映していた。	計画作成担当が変更したので、利用者の不自由さを新しい視点で掘り下げて考え、その人の最重点機能を絞ってどのような生活を支援したら良いか考えて欲しい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのケア内容に基づき個々に毎日チェックし月間でまとめている、それに基づきスタッフ会議で評価している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活歴、性格等考慮し生活の中でその場、その場を大切に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の音楽ボランティア、不定期ボラ、実習生など又近隣の施設からの招待等もあり、地域交流もできている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の説明でかかりつけ医との関わり、緊急時の対応や家族の要望も考慮している。	家族が付き添って受診する人もいるが、定期的なかかりつけ医への受診はホームで行っているため、主治医との関係は構築できている。ホームはかかりつけ医と連携して、適切な医療支援に努めていた。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居時に医療との連携のあり方を説明し、途切れることのない医療との関わりを説明を行い納得して頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居説明時に内科的な入院、外科的な入院などの説明を取り交わしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に将来的に関わる多方面の説明を行い納得して頂いている。	本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなく、家族の協力も得られるならばホームは全職員で相談してできるだけ支援をしたいと考えている。家族の希望で同一母体法人の特養へ移った人も居るが、家族も泊り込んでのターミナル支援も経験している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医へ連絡を取りその都度指示を頂き対応をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域と法人全体で行う、ふるさと独自でも年2回実地訓練を全員参加で行っている。	消防署も参加した同一母体法人関連施設全体での避難訓練以外に、ホーム独自で利用者も一緒に、夜を想定した訓練を2回実施した。水道局の防水訓練で、水のリレーの実施練習も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や人生の積み重ねてきた貴重な足跡を大切に生活の場で生かしている。	「一寸来て欲しいと言われてここへ来た」元教師の利用者は、ホームに仕事に来ていると思っている。「お客様にホームを案内してください」と頼まれて、張り切って私達を先導してくれた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活歴や性格の上に、ゆっくり自己表現が出来たり、飲み込んだ言葉の思いを察する。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者同士が自発的に同じ町内から来られている方を訪問し話や編み物が出来ている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前の行きつけの美容院で整髪している方、毎朝薄化粧、ヘアケアをされる方、自分で服を選ぶ方、家族の好みの衣類も取り入れている。特に整容、身だしなみにはきを付けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自が得意分野を發揮し洗い切る方、炒める方、皿づけの方、食後テーブルを拭く方、食器洗いの方進んで申し出てください。	エプロンかけて職員と一緒に野菜を切る人、テーブルを拭いてくれる人、デザートのみかんを配る人等出来る手伝いをしながら、「いただきます」と号令をかける人に合わせて皆で食べる食事は美味しい。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が食材料を準備し「ふるさと」独自のメニューを作っている。食分量の少ない方には摂取表を作り必要量を確保出来るようにしている。嚥下力低下の方、ムセの方にはトロミなど工夫をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後フロアの洗面台で全員行いその場で充分ながいも同時に行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自が各自室のトイレ使用をされているが失禁の確認は定期に行っている又全介助にて誘導の方には排泄チャートにて定期的に誘導清拭をしている。	各自の排泄パターンを把握し、タイミングを見て声をかけ、トイレ誘導できていた。各居室に自分のトイレと洗面所があり、給湯設備も整っているので、失禁時の対応もスムーズにできて安心だ。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な食、水分と散歩と不安のない生活、睡眠に努めている。特に腸閉塞や便秘気味の方には医師と相談し下剤服用の方もおられる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前の健康チェックをその都度行い本人の入りたい目安をもとに行っている、入浴中には平生聞けない話や中には不足や話し出すと止まらない戦争の話も出ている。浴後は入浴ノートに皮膚の状態等記録へ残している。	何かあればその都度支援するが、体調に問題がなければ2日に一度は入浴してもらうようにしている。入浴拒否の場合も無理強いせず、タイミングをずらせたり声かけの方法を工夫して応じてもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の生活パターンに基づきゆったり、ゆっくりとした生活の中で安心して休んで頂いている。まれに寝れなく深夜に出られる方もあっても、温かい水分を摂って頂き安眠に繋がっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスのないよう二重チェックを行い、薬の重要性も各自が網羅し十分な水分と確実な飲み込みを確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や性格、趣味など把握し楽しかったと言える日々を過ごして頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域内の散歩、地域からのイベントの招待、家族との外出など活発に行っている。	日々の散歩や買い物以外に、初詣、花見、紅葉狩等季節の行楽や、地域や母体法人関連施設の行事等に出掛けている。重度化のため気軽に外出はできないが、計画を立て家族協力も得て支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族が協力的で本人と外出時希望を叶えている、それ以外に欲しい物は受診の帰りなどにショッピングを行う事もある。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>面会の少ない方は手紙のやり取り、室内に電話を引いている方は家族へ頻繁に電話の交流が来ている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>屋内には季節の花や観葉植物、廊下やフロアには自分たちが作成した折々の手工芸が目線の高さへ貼ってあり、常に物音や話し声、食事作りの臭いのするフロアへ自然に集まっている。</p>	<p>大きな木の梁の見える天井、ウッドデッキの中庭を巡り居室やリビングがあり、一段高い畳の間や障子など、木の温か味溢れる拘りの造りでハード面は申し分ない。ツリーやしめ縄飾りなど季節感の配慮もあった。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれの居場所がフロアだったり、仲の良い方の部屋だったりしている、その時の気分も左右している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具、手を伸ばせば本人の編みかけのセーターが自室机の上には、いつでも話せる電話機がテレビのリモコン等があることで、精神的な安心に繋がっている。</p>	<p>家族の写真やお気に入りのマスコットを飾る人や、タンス、椅子、テーブル、テレビ等を持ち込む人もいれ、その人らしい居室だった。暖簾をかけたり表示をする等、各自の能力に合わせて支援していた。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各自室の入り口は9部屋作りが違い名前がなくても間違えることはないが、入居間もない方一名の方は案内表示を作り誘導している。</p>		